

戦争と平和に



8月29日、耳原歯科・院所利用委員会主催で「平和のつどい」を行いました。職員・患者・歯科院所利用委員など計38人の参加でした。

知る、感じる大切さ実感

耳原歯科・院所利用委員会主催「平和のつどい」

第1部では、5月に行われた全日本医連の「水俣病から学ぶ社会セミナー」に参加した歯科技術士からの報告と8月の原水禁世大会（長崎）に参加した歯科衛生士からの報告を聞きました。2人が参加した場所は違いますが、「現地に足を運び、知ることで感じる大切さを実感し

ました」と共通の思いを寄せています。第2部は、堺市在住の汐見弥寿子さんから「100年の人生と戦争」というテーマで戦争体験のお話をいただきました。今回、若い職員の参加が多かったこともあり、「戦争とは何か」「空襲について」「真珠湾攻撃」などの補足説明を同席された汐見さんの息子



汐見弥寿子さん

さんからいただきました。参加者の感想は、「戦時中すでに成人であった方のお話は、大変貴重であり、当時の堺の様子がとても身近に感じることができた」「鮮明な記憶で当時の様子が想像できて怖かった」などがありました。無数の焼夷弾が降りしきる中で生き延び、多くの遺体を目の当たりにした戦争。終戦後も生きていくことが大変だった時代。そんな汐見さんの「100年の人生のなかで戦争だけは絶対に繰り返してほしくない。そんな道に進もうとする政治も許せない」というお話が印象に残りました。

（耳原歯科診療所 阪井三三）

9月2日、原水禁世界大会の報告会を行い、職員20人が参加しました。

世界大会参加者から「初めての原水禁世界大会への参加、長崎も初めてでした。長崎の平和問題に

原爆被害に初めてふれて

今年の原水禁世界大会に、高砂クリニックから代表派遣をするのができました。事前学習会にも参加。カンパを職員や患者さんにお渡しし、職員向けにバザーにも取り組みました。

みみはら高砂クリニック原水禁世界大会報告会



毎年世界大会に参加されている池田所長からも報告

（2面からつづく）
婚だそつです。相手方の親から爆しているから今後体調面で大丈夫なのか、子どもができたとき影響は無いのかなと言われ、心身共に疲れたと言われていました。被爆した、していないで差別があったことを初めて知り、被爆者の方々が今まで、どれほどの思いで過ごされたか、苦勞してきたのか、考えただけでも恐ろしいことだと思いました。お話の後、Aさんも

交えて、若い世代にどう伝えていくかグループトークをしました。若い世代にも核兵器を無くしていく運動に興味がある人もいると思うので、どんどん参加者が増えるように私自身できることから始めていきたいと思います。核兵器の署名や平和行進などに積極的に参加できるよう、頑張つて勉強していきたいです。
（介護老人保健施設みみはら 介護福祉士 懸橋 龍治）

① 肘を伸ばし前方から高く上げる。

肩こり予防体操

「痛いのを我慢して運動しない」とよくならない」は逆効果です。症状が強い場合は無理をせず整形外科を受診して治療することを勧めます。

知って得する

いきいき生活

シリーズ③

② 肘を伸ばし胸の高さで持つ。
・体は正面に向けたまま左右に動かす。

（注意）体は一緒に動かさない

③ 腰の後ろで手のひらを後ろに向けて棒を持つ。
・肘を伸ばしたまま後ろに上げる。

（注意）体はそらないようにする。

□痛みが出ない範囲でゆっくり10秒～20秒行います。
回数などは個人差があります。
□棒は肩幅で把持して実施してください。
□棒がない場合はタオルでも代用できます。

社会医療法人同仁会 耳原総合病院リハビリテーション科